



——2025年の振り返りを
「清水建設の完全子会社になっ
たことは、大きな出来事だった。」

——26年の展望は

「これまで積み上げてきた事業
や取り組みを土台に、目標達成を
目指す。主力である建設事業のほ
か、海外事業を進展させるための
施策を強力に推進する」

「建設事業は、傘下の地域舗装
会社とその土地で業績を伸ばせる
基盤を整備する。空白となってい
る地域は、M&A（企業の合併・

「共創事業ではスポーツ関連に
力を入れ、協力する企業やターゲ
ットとする領域を検討する。特に、
私学の競技場改修といった需要を
見据え、M&Aも進める。イベン
トの運営管理など、Park P
FI（公募設置管理制度）にも挑
戦できる」

「海外事業部の体制を強固にす
るため、人員配置、情報収集力を
見直し、営業に力を入れる。また、
海外に目を向ける若手を増やすた
め、グローバルに関連した研修制
度を整える。施工部隊のローカル
化に向け、人事交流も行う」

——環境への対応は

「業績面では、中期経営計画の
2年目ながら、最終年度である
26年度の目標値に近い結果を残
している」

「タイとマレーシアで事業を展
開しており、舗装工法を根付かせ

「低炭素技術は国だけでなく地
方自治体にも売り込み、実装して
もらう。このほか、アスファルト
代替バインダー、環境配慮型アス
ファルト舗装『バイオ炭アスコ
ン』、循環型社会形成に寄与する
『すりもみ骨材』など再生材の利
用に取り組んでおり、リサイクル
事業を加速する」

主力事業生かし海外伸ばす

買収）や分社化を検討する。一方、
当社は清水建設とのシナジーを生
かした民間営業網を活用しつつ、
高い積算精度を強みに中央官庁、
純民間工事の受注を目指す。製造
・販売事業は、地域のプラントを
維持しながらリサイクル事業も成
長させたい」

ながら伸ばす。タイでは廃ペット
ボトルを再利用した『PETアス
コン』をはじめ、リサイクル事業
の話が出ており、製品販売事業の
準備をしている。このほか、バン
グラデシユ、インドネシアなど清
水建設が進出している国で、建設
事業での進出を視野に入れる」

横顔

今年の一字に選んだのは、「明」。
「明るい一年にしたい」との思いを込
めた。「社員が明るく過ごせたらうれ
しい」とも。

